

平成19年度 第2回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成19年7月12日（木） 13:30～16:52

会 場 松山総合支所 講堂

◎出席者

1号委員	齋藤 勝	富樫 茂	阿部 茂	寒河江 久也	小田 和夫
	齋藤 尚	佐藤 ゆき子	今田 充代	須田 良	
2号委員	山中 俊	土田 迪子	齋藤 薫		
3号委員	遠田 聡	佐藤 洋子	木村 美津枝		

松山総合支所 支所長 後藤 吉史 地域振興課長 新館 篤
市民福祉課長 大場 昭一 建設課長 川田 進
産業課長 難波 富也 教育振興室長 須貝 彰
地域振興課 課長補佐兼地域振興係長 阿部 みえ
主任 佐藤 伸 主事 乙坂 哲也

◎傍聴人 3名

◎議事日程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 会議録署名委員の選出
- 4 報告事項
○総合計画第1次原案に対する意見の状況について
- 5 意見交換
 - (1) 松山統合保育園等整備について
 - (2) 地域コミュニティ組織について
 - (3) 青少年国外派遣事業について
 - (4) 地域振興について
 - (5) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

1 開会・・・進行を務める地域振興課長が開会する。

2 あいさつ

(会長)

前回の会議では、会の組織等の課題について話し合った。今日は、現在進められている総合計画についての内容や平成19年度予算に計上されている松山地域の重要事項について協議していただきたい。

(支所長)

山中会長の話にあったように、松山地域には統合保育所の整備という大きな課題がある。保育所の場所については、地域の合意を得ながら決定していきたい。また、地域の拠点である総合支所についても冷暖房機能の整備や統合保育所の設置場所との絡みもあり課題となっている。市長はよく「地域はどういう考えになっていますか。」とよく問われる。この地域に関して、市議の方々や地域協議会委員の皆さん、地域の皆さんの考えを大切にしている。そういう意味で、今日の地域協議会の皆さんの意見は一つの大きな判断材料となってくると思うので、意見交換の中で実のある議論をしていただきたい。

3 議長及び議事録署名委員選出

○地域振興課長 会議録署名人の選出について協議会施行規則第5条により委員1名を選出する今回の会議録署名人を土田迪子委員にお願いしたい。

これより会議の議長を協議会設置条例第6条第2項により山中会長にお願いする。

4 報告事項・・・総合計画第1次原案に対する意見の状況について地域振興課長が説明。

(質疑応答)

○山中会長 計画については説明のとおりであるが、9月までに皆さんからいろいろな意見を聞きたいと考えている。修正版は事前に配布されているので、ご質問があればお願いしたい。

○齋藤(尚)委員 修正版を見ると意見が取り入れられ修正された経過が見えるので、ある程度評価されるものであると思う。

総合計画というのは固い行政用語の感じがするので、総合計画をまちづくり計画と呼んだらどうか。

地域の再発見を考えていかないと地域がなくなっていくような気がする。松山の自然、建造物、眺海の森などの景観、人間、文化、特産物はどうなのかなど、地域が持つ価値を再発見するためにそれらを一つの要素として取り入れていく必要があるのではないかと。

○富樫委員 計画の基本構想そのものには異論はない。ただ、議論する中で地域の姿が見えない感じを受ける。総合計画を市民に問うということは良かったのだが、判断させる材料が薄かったと思う。松山町時代の総合計画で積み残した課題についての具体的な対応を示していただきたい

かった。

- 土田委員 いい方向に修正されていると感じたが、やはり地域の特色が出ていないと思う。これは松山に限らず、平田・八幡についても同様である。観光資源をどう掘り下げていくかを各地域で話し合っていくことが協議会の役目だと思う。
- 小田委員 旧松山町ではこだわりを持って進めてきた。この総合計画については、網羅はされているが、具体性が見えずメリハリが無いような気がしてならない。例えば子どもたちの健全育成についてだが、どの部署でどういう取り組みを行っていくのか具体性が見えてこない。具体性の裏付けとなる文言を入れたらどうか。また、歴史・文化などについても入れていただきたい。
- 齋藤（尚）委員 この計画からどう波及していくのか見えないため先ほど質問した。その辺がわかれば教えていただきたい。
- 山中会長 この計画につながるものが何なのか説明していただけると理解度が上がるのではないかな。
- 地域振興課長 確かにただ今いただいた意見のように、「総合計画の中身については素晴らしいが、先が見えない、何を言おうとしているのか見えない。」という意見は他でもあった。総合計画は平成20年度から始まる10ヵ年計画である。地域協議会での意見を計画に反映させるためには7月27日の審議会がタイムリミットと考える。今回要点をまとめて、次の審議会に提案していただきたい。
- 山中会長 この計画では地域の姿が見えないという意見が多い。これはどこの地域に行っても同じ考え方が出ているようである。旧松山町時代は10ヵ年のスパンで財政的な裏付けをつけながら計画を組んできた。企画調整部では、我々が考えているものよりも、もっと長いスパンで考えているようである。旧町と市との考え方で若干のずれがあるように私は感じた。
もっとフリーに意見を交換ができるように、今までの会議形式でなく休憩を取った形で意見を出し合ってはどうか。
- 地域振興課長 報告事項については、おおよそ合意をいただいたものと捉えている。施策の大綱について委員の方々から意見をいただき7月27日の審議会で委員となっている山中会長から提案していただくということをお願いしたい。
- 支所長 総合計画というのは、酒田市としてどのように進んでいくのかという行政計画であり、今後10年間の酒田市の方向性を示したものである。基本的な方針が基本構想の部分であり、先ほど具体的という意見があったが、その部分については43頁以降にある重点プロジェクトに記されている。

この総合計画が今後どう使われていくのかだが、各部課単位で事業を具体化していく際に明示し予算要求をしていく。観光基本計画が平成19年度中に策定されるはずであるが、総合計画を受けて整合性を図るとともに具体的計画となるものと考えている。皆さんから問題提起されている地域計画については、旧酒田市の市街地については中心市街地活性化計画ということで策定中だが、そのほかの地域計画については予定にはあがっていない。それをどう進めいて

いくつかは今後の課題として受け止めさせていただく。

- 富樫委員 一步下がって地域に戻ったときに地域の姿が見えない。他人ごとのように感じる。それをどうやって整理していくのか行政はその内容を把握しておくべきだ。

昨年7月の地域づくり懇談会で、地域の活性化事業ということで山寺の大溜池でのホテルの里づくり事業を提案した。副市長と一緒に勉強させていただきたいと言っていた。こういった事業を計画に入れるためにはどのような手段で行えばいいのかが見えない。

総合計画の意見集約について、地域協議会での意見が最終意見であるといわれては重荷であるし、それならばもっと事前に意見交換をやって然るべきと考える。

- 齋藤（尚）委員 行政計画ということは分かったが、我々が話し合う視点をどこに置いて考えれば良いのか見えない。前回の会議で話した総合計画の勉強会のための部会を組織しなければならないのかとを感じる。

5 意見交換

(1) 松山統合保育園等整備について・・・地域振興課長説明

14:40 休憩（松山統合保育園等整備について意見交換）

15:15 再開

(2) 地域コミュニティ組織について・・・地域振興課長説明

- 阿部委員 運動会の反省会のときにコミュニティについて話をした。以前、事業費の1/2の補助しかないと聞いていた。公民館をコミュニティに一本化した場合、維持費のみで一戸あたり8,600円の負担になる計算だ。それだけお金を徴収するのであれば、賛成しないという反応が多かった。その時その時で支援基準が変わるので、どれを信じていいのかわからなくなる。

- 富樫委員 施設運営費は、市で持つという話があるがどうなのか。

- 支所長 公民館は市の施設であるので市が管理するのは当然と考えている。ただ、施設管理費の補助については決定したことではない。

- 富樫委員 「コミュニティ振興会が組織化された地域～」とあるが、どういうことか。

- 地域振興課長 21年4月時点で例えば、支所管内で3つの地域ではコミュニティ振興組織ができて、残り1つは理解を得られなかったため立ち上げができなかったという最悪のケースを考えずに、まずコミュニティ振興組織設立を目指そうという目標である。

- 富樫委員 そうではなくて、公民館を残してもいいのかということだ。

- 地域振興課長 公民館をコミュニティ振興組織に移行することを前提に進めようということである。

- 富樫委員 コミ振化については、市民から見ると費用負担についての天秤を掛けるしかないと考える。市としてコミュニティ化のために公民館をなくするという考えでは説明になっていない

と思う。

山寺地区ではコミュニティ組織を立ち上げたが残念なことに行政がコミュニティを一人前として見てくれていない。山寺地区では6自治会をまとめて組織したが、情報は各自会などに個別に行き、コミュニティ振興会には伝わってこない。まずは、情報の共有化を図っていくことが大事だと感じているので、行政の方でもご協力を願いたい。

- 支所長 9月までには、コミュニティ振興会についての補助要綱等をまとめるということなので、もう少し待っていただきたい。コミュニティ振興会の問題は、指定管理者制度も踏まえて検討事項に入っている。
- 小田委員 地域コミュニティの単位を4つと言ったが、単位となる会員（人口）はいくらぐらいが適当か。
- 山中会長 500名を想定していると話に出ていた。最初は小学校区という話もあったが、松山地区としては4地区として議論を進めてきた。集落の人が減ってきているため文化継承もままならない状態である。そういったことも含めてコミュニティは必要である。

(3) 青少年国外派遣事業について・・・教育振興室長説明

- 山中会長 教育委員会としての考えはないのか。
- 教育振興室長 教育委員会としては、「はばたき」事業に一本化の検討が始まっている。できれば統合した方が望ましいとの声もある。皆さんのご意見を参考に検討していきたい。
- 今田委員 予算はきちんとつくのか。
- 教育振興室長 今年アメリカからの受入れの年で、その予算は地域づくり予算に入っている。来年はアメリカへ行く年だが、「はばたき」は対象が中学校2年生なので、「はばたき」に一本化した場合、今年の2年生は来年3年生になるため対象外となるが、その点は考慮していきたい。
- 遠田委員 「はばたき」に統合するという考え方だけではなく、「松山」事業の良い所も取って事業を組んでいったらどうかと思う。
- 木村委員 「はばたき」に事業を統合した場合、松山地区からは1名の派遣となるのか。また、「はばたき」は毎年派遣なのか。
- 教育振興室長 各学校1名の派遣枠はある。「はばたき」は、毎年派遣のみで受け入れは無い。
- 土田委員 旧町時代から事業を見ていたが、大変意義のある事業だと感じている。しかし、夏休み期間中の旅行だと、学校との交流もできないので、「はばたき」に統一になっても仕方が無いとも感じる。
- 齋藤(尚)委員 合併して、松山のものがあちこちで消えていっている。松山らしさを残しつつ、続けていって欲しいと思う。
- 教育振興室長 受入れの面で30世帯ほどから、その後の状況を聞き取りした。状況を聞くと当時生徒だった方はほとんど地元に残っていない状況である。保護者にアメリカの生徒が来たときに受入れは可能かと聞いたが、受入れ当時は子どもがいたために、受け入れたのであって、

ほとんどは抵抗があるという回答であった。

- 佐藤（洋）委員 平田の事業の田園調布学園中学2年生の受入れで、合併して松山にも要請が来たが、日本の子どもでも受入れ先を探すのが大変なのに、まして言葉の通じないアメリカの子どもを受入れるのは困難なことだと思う。
- 富樫委員 相互交流事業なのに保護者がそういう考えであること事態、事業の意味を持たなくなったのではないか。「はばたき」の交流相手先にライトハウスチャータースクールを入れるのも一つの手だと思う。意義を考えれば、良い事業だと思うが、地域づくり予算としては性格が違うのではないかと考える。

（4）地域振興について

- 阿部委員 地域づくり予算について、今から協議していかないといけないのではないか。
- 土田委員 観光ボランティアガイドは松山にいるのか。
- 産業課長 松山地区では現在、10名の観光ボランティアガイドの方々から活躍いただいている。
- 土田委員 広域観光ルートの開発ということについてお聞きしたい。
- 支所長 酒田へ来るお客さんは東北中心の方々である。酒田を訪れる年間340万人ほどのお客さんがどう行動するかを考え、酒田をどう売り込んでいくかが重要である。観光は如何に経済波及効果を実現するかがポイントとなる。しかし、景観で儲けることはできないので、いかに観光で経済効果を生み出すかを考え、そこで物を売ったりして利益を生む戦略を打ち出していくことが大事である。
- 支所長 統合保育園の調査費について、先ほど200万円とあったが、そのことについての修正と外山越線の工事について関係課長より詳細を報告願いたい。
- 市民福祉課長 統合保育園にかかる今年度予算額は50万円で企画調整課に調査費としてついている。平成20年度、21年度は数千万円になるかと思われる。
- 建設課長 外山越線については、今年度は調査に入る。平成21年度以降に工事に入ると思われる。カーブの改良工事が主なものだと聞いている。また、事業は予算のつき方などに関連し変更になるかと思うが、2カ年にわたって行われるものと思われる。

6 その他

- 山中会長 地域づくり予算の意見交換会をいつぐらいに開催するか。
- 地域振興課長 平成20年度の地域づくり予算の予算要求に向けて8月を目途に会長と相談しながら日程調整を行う。

7 閉会・・・進行の地域振興課長が閉会する。